

(株)タイツウ運輸は、9月1日から**新年度**が始まります
今年度は、**交通事故「ゼロ」、労災事故「ゼロ」**を目指しましょう

運転手に**禁錮3年6月**＝母子3人死亡事故

ペットボトルを拾うのに気を取られ、**ブレーキを踏まずに渋滞の車列に追突**

2016年8月31日(水)16時47分

山口県の山陽自動車道で5月、**母子3人が死亡した多重衝突事故**で、自動車運転処罰法違反(過失運転致死傷)罪に問われた**トラック運転手**の女性被告(54)の判決が31日、山口地裁であった。裁判官は「**結果は重大で深刻。被告の過失は重い**」と述べ、**禁錮3年6月**(求刑禁錮4年6月)を言い渡した。裁判官は、被告が運転中に**足元のペットボトルを拾うため体を傾け、前方の停止車両を注視していなかった**と指摘。「**基本的な注意義務を怠った**」と批判した。

判決によると、被告は5月3日夜、山陽道を時速約90キロで走行中、ペットボトルを拾うのに気を取られ、**ブレーキを踏まずに渋滞の車列に追突**。家族5人で乗用車に乗っていた女性＝当時(37)＝と息子＝同(13)＝、娘＝同(9)＝を**死亡**させたほか、**7人に重軽傷**を負わせた。

2時間ごとに、15分休憩で 守ろう！ 自分の命 他人の命

交差点 信号が、「青」に変わった！ **チョット待て！ もう一度、安全確認しよう**

バックは・・・『カメが歩くスピードの気持ちで！』

- 積み下ろし作業中の、**荷台からの墜落・転落**に注意しましょう
- 鋼材、資材**の積み下ろし作業中の、**手・指・足のはさまれ事故**に注意しましょう
- ハウス、トイレ**の積み下ろし作業時の、**脚立・屋根からの転落**に注意しましょう
- 敷き鉄板**の積み下ろし作業時、**ユニック作業**に注意しましょう

乗用車が**大型トレーラー**と衝突…**3台絡む事故に 3人死傷** 乗用車が対向車線にはみ出し、トレーラーと激突

(2016/08/31 20:00)

大型トラックなど**車3台**が絡む事故で、**3人が死傷**しました。警察によりますと、31日**午前11時前**、福岡県の国道で、乗用車が中央線をはみ出し、対向車線を走っていた**トレーラーに激突**しました。トレーラーは横転し、乗用車の後ろから来ていた**大型トラックも衝突**しました。乗用車を運転していた6歳とみられる男性が**死亡**したほか、トレーラーの男性が**骨折**、大型トラックの男性も頭から出血し、病院に運ばれました。事故の影響で、国道は上下線とも通行止めとなっています。

大樹町・新得町・清水町 **川に車転落し、行方不明の3人 捜索を再開**

2016年9月1日 6時12分

台風10号による大雨で、北海道では**橋の一部が流されて車が転落**する事故が相次ぎ、**3人が行方不明**になっています。

警察と消防は1日朝から捜索を再開しました。台風10号による大雨で、北海道では**大樹町**と**新得町**、それに**清水町**で、それぞれ**橋の一部が流されて車が転落**する事故が相次ぎ、**3人が行方不明**になっています。

このうち、大樹町では31日未明、コンサルティング会社の従業員3人が乗った車が**ヌビナイ川に転落**しました。3人のうち、30代と50代の男性2人は**車の窓から自力で脱出**しましたが、男性(28)が**行方不明**になっています。

また、新得町では**パンケシントク川**にかかる橋から、「**軽乗用車が落ちた**」と警察に通報がありました。警察が調べたところ、近くに住む**70代の男性**と連絡が取れなくなっているということで、警察はこの男性が**流された**と見て**行方を捜**しています。

さらに清水町でも**ペケレベツ川**にかかる橋で「**ワゴン車が転落した**」という情報が警察に寄せられ、**男性1人の行方**が、わからなくなっています。

これまでのところ、3人は見つからないということで、警察と消防は1日朝から捜索を再開し、3人の発見を急ぐことにしています。

元帯広署員 **「何度も飲酒運転」 酒気帯び事件初公判** 事故さえ起こさなければ発覚しなかった

2016/08/31 23:49

【帯広】飲酒運転をしたなどとして、道交法違反の罪に問われた、いずれも元帯広署員の男性A(20)＝**懲戒免職**＝、男性B(20)＝**同**＝の両被告の初公判が31日、釧路地裁帯広支部であり、両被告は起訴内容を**認めた**。検察側はA被告に懲役1年2カ月、B被告に懲役10カ月を求刑し即日結審した。判決は13日。公判で、A被告は「**昨年8月から何度も飲酒運転**をしてきた。**事故さえ起こさなければ発覚しなかった**」などと証言。検察側は論告で「**飲酒運転を取り締まる立場にある現職警察官の安易な犯行**。警察に対する**信頼を失墜**させた」と指摘した。

弁護側は「**警察官だったというだけで刑を加重するのは疑問**」と述べ、A被告には他の同様の事案と不均衡ではない判決、B被告には罰金刑を求めた。

起訴状によると、A被告は6月19日**午前4時20分**ごろ、**酒気を帯びた状態**で乗用車を運転し、帯広市内で**停車中の車に衝突して逃走**。B被告は、同乗していたA被告も**酒を飲んでいて知りながら**、事故で落下したナンバープレートの回収を依頼。**2人は酒気を帯びた状態でそれぞれ自分の乗用車を運転**し、ナンバーを捜しに行ったとしている。